

令和 4 年度第 1 回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	能登半島における水素利活用モデル構築実証事業	
補助事業者名	石川県	
補助事業の概要	能登半島において、再生可能エネルギー・水素を活用したスマートグリッドを構築し、エネルギーの地産地消、水素利活用に関する実証事業を行い、燃料電池自動車（FCV）を活用した水素の普及啓発活動を実施した。	
総事業費	116,472,562 円	
補助金充当額	116,472,562 円	
定量的目標	春蘭の里におけるゼロカーボンビレッジの構築	
補助事業の成果及び評価（事業毎にあらかじめ設定した事業目標を達成したかなど）	①再生可能エネルギー・スマートグリッドを活用した「ゼロカーボンビレッジ」の構築 農家民宿「春蘭の里」において、再生可能エネルギーによる発電、施設（農家民宿、宿泊交流施設、EV 充電スタンド）に電力を供給できる体制を整備した。合わせて再生可能エネルギー由来の電力で水素製造を行い、水素を貯蔵する体制を整備することで、悪天候時の再生可能エネルギーによる電力供給を平準化（安定供給）し、また、電力供給の最適化の観点からスマートグリッドを活用した。 貯蔵した水素については、電力供給の平準化に活用するだけでなく、水素をエネルギーとするアプリケーション（FC カート）の運用実証にも活用した。 こうした実証を通し、能登半島におけるエネルギーの地産地消、水素利活用の課題の洗い出しを行った。 ②燃料電池自動車（FCV）を活用したモニター事業 FCV、水素の普及啓発、FCV による能登半島周遊における課題の洗い出しを目的に、レンタカー事業者の協力の下に、FCV レンタカーのモニター事業を実施した。 具体的には、能登半島において FCV をレンタカーとして周遊させることで、FCV 及び水素の PR に繋げるとともに、FCV レンタカーの利用者からアンケートを取り、能登半島周遊における動き、FCV レンタカー利用の際の課題を調査した。 調査結果を踏まえ、FCV レンタカー利用者の利便性向上を図り、FCV の普及を促進するとともに、能登半島における水素ステーションの最適な整備の検討等を行った。	
補助事業の実施に伴い締結さ	契約（間接補助）の	ゼロカーボンビレッジ構築の計画・立案

れた売買、貸借、請負その他の契約 （※技術開発事業のみ：間接補助を行った場合は、間接補助先を記載）	目的	
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方（間接補助先）	日本環境技研株式会社
	契約金額（間接補助金額）	6,996,000 円
	契約（間接補助）の目的	ゼロカーボンビレッジの設計・整備
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方（間接補助先）	一般社団法人能登スマート・ドライブ・プロジェクト協議会
	契約金額（間接補助金額）	92,744,586 円
	契約（間接補助）の目的	ゼロカーボンビレッジにおけるグリーン水素利用アイテム実証開発
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方（間接補助先）	日本環境技研株式会社
	契約金額（間接補助金額）	6,765,000 円
	契約（間接補助）の目的	燃料電池自動車（FCV）を活用したモニター事業
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方（間接補助先）	株式会社トヨタレンタリース石川
	契約金額（間接補助金額）	9,966,976 円
来年度以降の事業見通し	継続してグリーン水素実証の機器の実証運用を行うとともに、これまでの知見を活かして、新たに水素キャニスター（水素吸蔵合金）を利用した水素グリルの開発及び実用化検証を県内企業と連携して行う。また開発した水素利用モビリティ試乗や水素グリルによる食事体験等のイベント対応による地域の魅力拡大・方法発信に貢献する。 さらに、春蘭の里で製造した水素を水素キャニスターに充填し、域内の農家民宿等に配送し、各農家民宿における電力や水素グリルとしての活用も目指す。	

（備考）

- 1 事業完了した日から３ヶ月以内の提出をお願いします。
- 2 定量的成果目標の欄には補助金応募申請書提出時に設定した成果目標をそれぞれ記載すること。
- 3 補助事業の成果及び評価の欄には、公募要領８．で記載した内容に対応した、定量的な成果実績と評価を記載する

こと。それ以外にも、定性的な成果実績や、進捗度、利用量並びに効果等といった別の定量的な指標があればできる限り数値を用いて記載すること。

4 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。

5 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。